

所在地:	静岡県袋井市中新田字浜野1800-1		
敷地面積:	19941㎡	延床面積:	7292㎡
設立:	1984年6月	従業員数:	45名
ISO14001取得:	2007年7月	ISO14001最新更新:	2011年7月
主要製品:	木製デスク、AVラック、ダイニング、システム家具		
環境コミュニケーション:	10年度		
情報開示:	1件	工場見学:	5名
問合せ:	コーポレート管理部環境社会貢献室	地域貢献活動:	1件
		TEL:	045-450-2512



ごあいさつ

当工場は、東海道のどまん中の袋井宿(袋井市)に位置し、すぐ南が太平洋の遠州灘、周辺には茶畑や田園広がりとても自然環境に恵まれた中で生産活動を行っています。

当社は、1984年に日本ビクター(株)インテリア事業部の製造工場(インターメーベル工芸)として設立され、2002年にはインテリア事業部と統合し、ビクターインテリア(株)として生まれ変わりました。その間20年以上にわたり国内生産、販売に拘り、お客様のインテリア文化への貢献、快適住空間のご提案に努力してまいりました。2007年6月に日本ビクター株式会社本社グループの1ブロックとしてISO14001の認証をうけました。環境への取り組みを本社グループの一員として実施すると共に、地域住民との対話を図り環境関係の苦情問題等が起きない様に対策及び改善を推進してまいります。



環境責任者
高藤 力

2010年度の環境重点テーマの取組み

目標	成果
地球温暖化防止対策 CO2排出量 前年比1%削減 (2010年度: 2000年度比 10%削減)	前年比11%削減。非稼働設備の省エネ活動を徹底及び生産量の減少に伴い、大幅な削減を達成。
廃棄物発生量の削減 前年度比2%削減+ゼロエミ (2010年度: 2000年度比 20%削減)	前年比3%増加。 滞留商品や台風被害による不良商品の処分により、木くず・廃プラスチック・ガラスの廃棄量が増加。
化学物質管理 重点対象物質: 排出移動量 前年比2%削減 (2010年度: 2005年度比 10%削減)	前年比52%削減。 生産量に合わせた使用量の管理を推進し、大幅な削減を達成。

製品・環境配慮ポイントの紹介



『スタイリッシュシアター』

TVの薄型化・大型化に伴い、家庭でのAVシーンが大きく変わりつつあります。ご家庭でのホームシアターの提案として、ビクターインテリアは大型TVとスクリーン収納の一体化により、手軽に楽しめるホームシアターをご提案いたします。

『Forby』

「Mix Style」それぞれの家族が持つ、ライフスタイルがシェアスペースとして新たな空間を創造するForby。組み合わせレイアウトは自由自在。そしてスッキリスリムな収納。レイアウトフリーでリビング・ダイニングを快適にする「フォルビー」のヒミツは、ユニバーサルデザインに配慮した安全性能。ライフスタイルと住環境に合わせフリーに組み合わせ楽しめます。

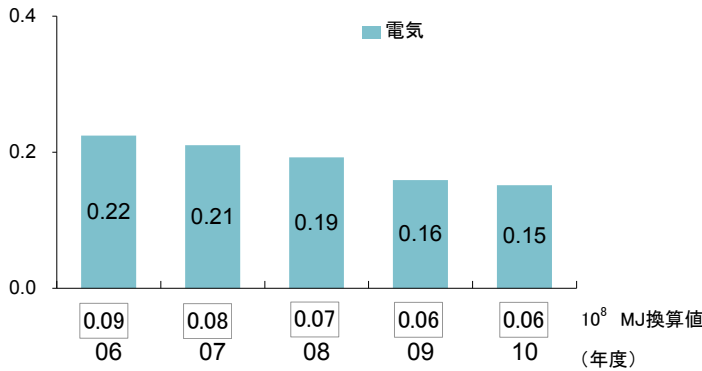


製品の環境配慮ポイント

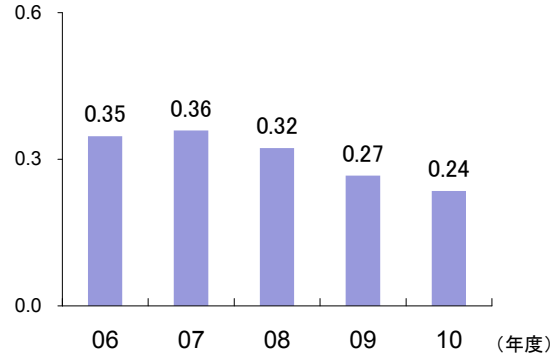
当社製品は環境負荷の小さい素材・塗料を使用し、お客様の満足できる商品作りを目指しています。人体に影響の大きい有機溶剤の代替化に取り組み、塗料の変更を実施してきました。今後も「人にやさしい」「環境にやさしい」をキーワードにお客様の健康を守り、できるだけ環境に負荷をかけないことを常に考えものづくりに取り組んでまいります。

環境パフォーマンスデータ グラフ表示年 2010:2010年4月1日～2011年3月31日

エネルギー使用量 単位：千kl



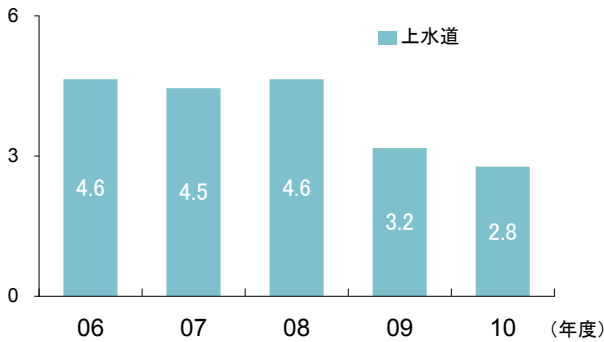
CO2排出量 単位：千t



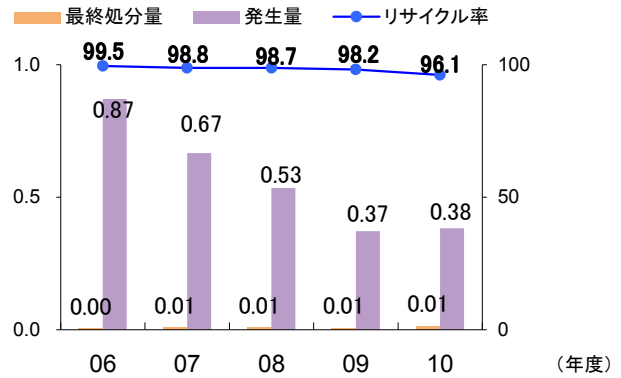
算出基準について

2010年度 電力のCO2換算は 0.412kg-CO2/1kwh(2009年度実績値) で計算、他の年度は電事連公表値で計算しています。

水の使用量 単位：千m³

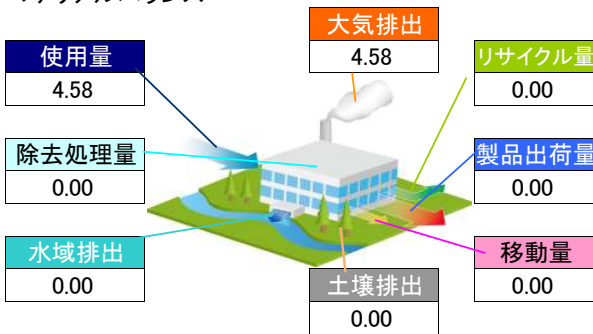


産業廃棄物・有価発生物 単位：千t、%

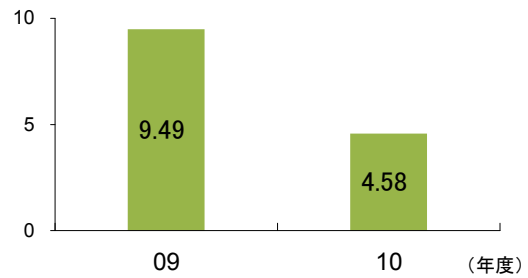


化学物質

10年度 マテリアルバランス



重点削減物質 排出・移動量



環境パフォーマンスデータの特記事項

重点削減物質＝PRTR法、VOC(大気汚染防止法)、GHG(地球温暖化対策法)の中で、環境影響の大きいとされる物質を指定。(電気・電子業界での使用実績の大きいものなど 約60物質群)

環境法令等の順法状況 10年度

<大気汚染物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
SOx	Nm3/h	N/A					
NOx	ppm	火焚ボイラー	400.00	400.00	377.00	388.00	年/2回
ばいじん	g/Nm3	火焚ボイラー	0.30	0.25	0.09	0.10	年/2回

<水質汚濁物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
COD	mg/l	N/A					
BOD	mg/l	N/A					
窒素	mg/l	N/A					
リン	mg/l	N/A					

<騒音・振動>

	単位	計測場所	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
騒音	dB	昼 隣接境界地	55.00	55.00	48.00	53.00	年/1回
		夜 N/A					
振動	dB	昼 隣接境界地	65.00	65.00	41.03	40.30	年/1回
		夜 N/A					

法令規制値：法または条例および協定の規制する値

N/A：法令規制対象外の項目

法令規制値超過について

法令規制値及び自主規制値の超過はございません。

指導、指摘事項に対する改善状況

指導、指摘事項	改善対策
有機溶剤臭、ボイラーの煙が酷い2010年6月近隣住民より苦情(袋井市役所から連絡)	自動塗装工程でワーク間隔狭くして無駄吹きを排除等で⇒臭気規制値クリア、ボイラー煙においては燃焼時の空気量の調整、煙の監視(随時)等に対応

環境方針

ビクターインテリア株式会社はすべての事業活動において『地球環境の改善』に取り組み、国際社会から信頼される「良き地球市民」として、継続的発展が可能な社会の実現に向かって努力致します。
環境の改善は企業の社会的責任であることを深く認識し、インテリア家具製造・販売の事業活動において、環境負荷の低減を図り、継続的改善と汚染の予防活動を次により推進致します。
日本ビクター株式会社国内グループの一員として次の環境方針に従った活動を進めます。

日本ビクター株式会社国内グループ環境方針

<経営基本方針スローガン>

「文化に貢献 社会に奉仕」

<基本理念>

日本ビクター株式会社国内グループは経営基本方針スローガンのもと、すべての事業活動において「地球環境の保全」に取り組み、国際社会から信頼される「良き企業市民」として持続的発展が可能な社会の実現に向かって努力します。

<基本方針>

広く環境の改善は企業の社会的責任であることを深く認識し、「オーディオ・ビジュアル・マルチメディア、システム・ネットワーク、コンポーネント・デバイス、メディア、IT、インテリア家具及び関連商品等の、研究、開発、生産、販売、施工、並びに業務用機器のメンテナンスサービス及び業務マネジメントサービス」を主とした本社・事業部・関連会社を含めた事業活動において、環境マネジメントシステムの継続的改善及び汚染予防活動を次により推進します。

1. 製品・サービスを含む事業活動により生ずる環境影響を常に考慮し、環境負荷の継続的な低減を図ります。
2. 国内グループの環境側面に適用する法規制及びその他の要求事項を順守し、必要に応じて自主基準を設定し管理の質の向上に努めます。
3. 環境改善活動を推進するための組織・体制を常に整備し、環境監査を実施することにより活動の継続的向上を図ります。
4. 国内グループのために働く人の環境に関する意識を高め、全員で環境の改善に取り組めます。
5. 地域社会との共存共栄を図るとともに、取引先及び海外事業所とも可能な限り協力して、環境改善を推進します。
6. 次の項目に重点的に取り組み、地球環境の保全に寄与します。
 - ①環境負荷低減型の研究開発と商品開発を進め、積極的に訴求します。
 - ②地球温暖化防止のため、省エネルギー活動を通してCO2排出量の削減に取り組めます。
 - ③廃棄物の資源化及び発生量の削減により、資源の有効利用を図ります。
 - ④化学物質を適正に管理し、使用量の削減に取り組めます。

～この環境方針は、社内外に環境パンフレットなどで公開しています。～

制定：1998年4月 1日
改訂：2011年4月21日
作成者：日本ビクター株式会社
国内グループ環境保全統括者
取締役 小宮山 正前

環境コミュニケーション事例

浅羽海岸植樹「グリーンウェーブキャンペーン」

浅羽海岸植樹「グリーンウェーブキャンペーン」は、袋井市が取り組んでいるボランティア活動で、松くい虫等より被害を受けた浅羽海岸の防風林の再生を図り、貴重な緑の財産を次世代へと継承していくため、市民・行政・企業が一体となってクロマツの苗木の植樹活動に当社も参加し、地域社会との環境コミュニケーションを推進しています。

緊急事態への準備と対応

当サイトにおいて、緊急事態とは、事故及び予期せぬ事態で放出物を大気、排水、土壌等へ異常に放出するもので、爆発、火災、ガスの噴出、危険物・有害物・水質汚濁物質及び土壌・地下水汚染物質の漏洩等により、環境に影響を与える重大事故をいう。

環境に影響を及ぼす可能性がある事故・緊急事態については、それが起きないように作業手順を決め、また防御策を施して万全を期すこととしています。
現在、緊急事態に繋がる特定業務はありませんが、有機溶剤などの取扱管理はその管理手順を定め事故の未然防止を徹底しております。